



# 鹿田小だより



元気いっぱい 勉強こつこつ 親切ハートの  
岡山市立鹿田小学校



令和2年度 第8号 8月26日

## こんな夏休みに

### ①健康第一

3密を避ける。KKTМを守る

### ②チャレンジ

夏休みだからできること

### ③心のプレーキ

してよいことか考えて



# 2学期が始まりました！

25日間という、例年に比べるとずいぶん短い夏休みが終わり、今日から2学期が始まりました。1学期終業式で、左の3つのお話をしました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、充実した夏休みとは言えなかったかもしれませんが、「夏休みだからできること」に、何か挑戦することはできたでしょうか。

2学期も新型コロナウイルス感染症への注意がまだまだ必要です。「油断大敵」です。また、今年は残暑が厳しく、まだまだ暑い日が続きます。熱中症にならないようにするためにも、毎日の健康管理が大切です。毎朝の検温や健康観察記録表への記入、水筒の準備などご家庭でのご協力をよろしくお願いいたします。

2学期の主な行事を右に掲載しています。現時点では、実施の予定ではありますが、新型コロナウイルス感染症の今後の状況によっては変更になる場合が考えられます。各行事の実施の可否や詳細については、行事ごとにお知らせいたします。

## 2学期の主な行事

### <9月>

- ・11日 4年山の学校（日帰り）
- ・26日 運動会

### <10月>

- ・2日 3年社会科見学
- ・7日 2年生活科見学
- ・8日 5年海の学校（日帰り）
- ・13日 陸上記録会（5, 6年）
- ・16日 1年生活科見学

### <11月>

- ・14日 音楽発表会（2, 4, 6年）
- ・27日 鹿田祭り

### <12月>

- ・24日 2学期終業式

## 2学期もがんばろう！

ゆ だん たい てき

# 油断大敵

気をぬいたり、注意を怠ったりすると大きな失敗につながる。だから十分気をつけなさい。

## 運動場の整地

7月中旬から、ダンプカー、ブルドーザー、ショベルカーなどが運動場に入り、整地作業をしました。表面の土を10cmほど削り、その土を機械（写真の丸で囲まれた機械）でふるいにかけて再利用するのですが、ベルトコンベアの上を、土がどんどん流れていく様は迫力がありました。これで、鹿田小学校新校舎と鹿田認定こども園の建設に伴う大きな工事は終了となります。

きれいになった運動場で、運動会をするのが楽しみです。

整地中は運動場の使用ができず、利用団体の皆様にはご不便をおかけしました。



## 夏休み中の学校で

短い夏休みでしたがいろいろなことがありました。そのいくつかを紹介します。

### プログラミング教育研修

今年から本格的に取り組む「プログラミング教育」は、コンピュータがますます社会に浸透している中、コンピュータを使いこなすための力を育もうとするものです。

この日は、その力の一つである「論理的思考力」を子どもたちに身につけさせるための、授業の在り方について研修をしました。コンピュータに、どんな命令をどんな順番で入力すれば、コンピュータがその命令を思った通りに実行するか、それを考えながら試行錯誤することの楽しさを、授業を通して子どもたちに味わわせたいと思います。



## 読み聞かせボランティア研修会

1学期は開催できなかった「お話し会」でしたが、2学期の開催に向け、新しく加入された方を対象にした研修会が開かれました。

大きな声を出さなくてもよいようにハンズフリーマイクを使用したり、本の前に集まらなくてもよいように朗読を取り入れたりするなど、新型コロナウイルス感染症対策が工夫されていました。子どもたちの読書活動をいつも支えてくださり、ありがとうございます。



## ～子どもたちの安全のために～

### 食物アレルギー研修

食物アレルギーなどでじんましんや咳、息苦しさなどアナフィラキシーの症状が出た場合、迅速な対応が必要です。患者、担任、近くの職員など、役割分担をしながら対応の手順を確認しました。



### 不審者対応研修

西署のスクールサポーターの方にお越しいただき、毎年実施しています。不審者の動きを見極めながら、子どもたちを隣の教室に誘導したり、机やイス、さすまたなどを使って、不審者の動きを止めたりする方法を教えてくださいました。



## ピースバルーン

バンビクラブが毎年参加しているピースバルーン。例年は大供公園でしたが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、開催されなかったため、学校の中庭で行いました。バンビクラブの子どもたちと先生方、そして、鹿田小学校の先生も数人参加して、平和への願いを込めて風船を飛ばしました。



## 学校長のつぶやき ～長いトンネルを抜けると・・・～

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」これは川端康成『雪国』の書き出しです。このトンネルは、JR上越線、群馬県と新潟県の県境にある清水トンネルのことで、全長は9,702mあります。確かに長いですね。しかし、どんなに長いトンネルでも、入口があれば必ず出口があるものです。では、今私たちが入っている「新型コロナウイルス感染症」というトンネルにも、出口はあるのでしょうか？

新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの行事や催し物が中止になったり、自由に旅行ができなくなったり、暑くてもマスクをしなければならなかったりと、今までとは違った生活になってはいますが、悪いことばかりではありません。自分のためだけでなく、周りの人のために、マスクを着用したり、手洗いをしたり、人との間隔をとったりなど、お互いを思いやる気持ちがだんだん強くなってきているように感じています。これはよいことです。

長いトンネルの今どのあたりにいるのか、出口まであとどのくらいかかるのか、トンネルを抜けるとそこにはどんな世界が広がっているのか、それは分かりません。今はみんな心をつなげながら、出口に向かってひたすら進んでいくしかありませんね。

